

図書館評価とNACISIS-CAT/ILL



H18データベース実務研修
グループ演習

蝦原加奈子
土居 純子
松本 千恵
和田 由季

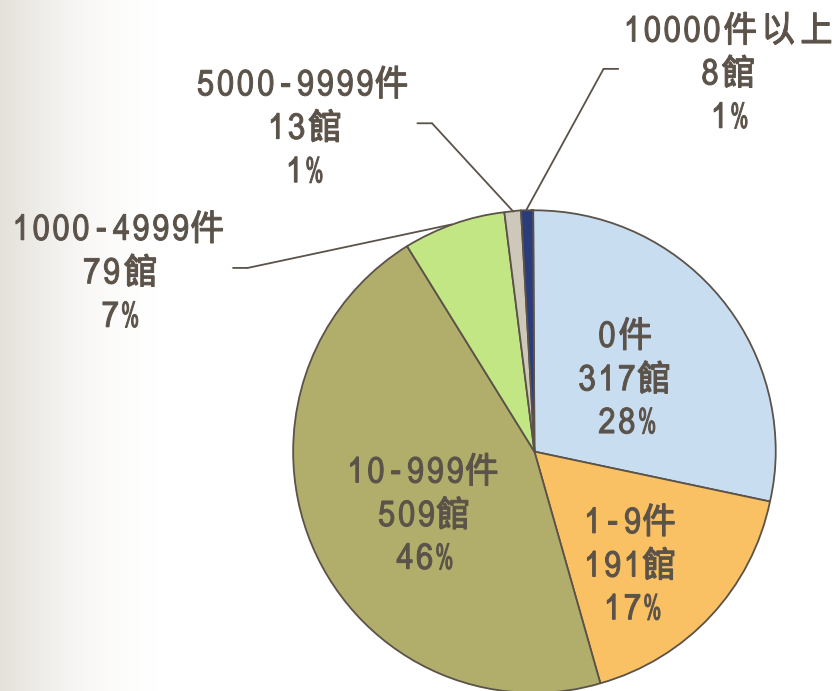


図書館評価とNACISIS-CAT/ILL

1. NACISIS-CATの現状
2. 目録業務の価値と必要性
3. 目録業務継続のために
…評価制度の提案
4. 評価制度提案の難しさ
5. 全国規模の総合目録の充実を
はかるために…(まとめ)

1. NACISIS-CATの現状

平成17年度の書誌作成件数と参加館の割合



平成17年度(単年度)
図書書誌登録件数
475,116件

$$\frac{21\text{館}}{1,117\text{館}} = \frac{203,014\text{件}}{475,116\text{件}}$$

約2%の参加館が約43%の
書誌レコードを作成している

(参考) http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat_stat_c_crtfa_h17.html



参加館の二極化

- 45%の参加館は1年間ほぼ作成せず
 - CATはOPAC用データの作成ツール？
 - 煩雑なレコード調整を回避
- 「共同構築」の理念はどこへ？
- 高まる不公平感
 - DB構築に貢献すればするほど増加する負担
 - 一部の参加館の献身的な貢献により成立
しかし、どんなに貢献しても何の評価もない。



書誌の品質の低下

- 重複図書書誌レコードの増加
 - 重複書誌レコードの4分の1が全く同じ内容
- 安易な作成・修正
- 雑誌所蔵未更新
- 果たして高等教育・研究機関向けの総合目録と言えるのか。



この演習での考察

今貢献できている図書館

? || ?

組織経営陣にCATの理念が理解されている

- 目録業務の安定基盤を構築、維持していくことの難しさ。
- 目録業務の価値、必要性の再認識。
- 体制の維持、強化に繋がる評価システムを。



2. 目録業務の価値と必要性

- CATへの登録業務とは？

- テクニカル・サービス

- 対外的に理解されにくい

- 利用者の所蔵資料活用のために、
図書館側が行う一連の地道な業務。

- (受入 目録作成 検索 現物を発見！)



求められる目録の精度

- 高等教育・研究機関として利用に耐えうる精度が求められる。
- 公共図書館や小中高の図書室とは異なる。



CATへの登録による効果

- 書誌データによって資料が活きる。
- 貸出し時の固体識別ができる。

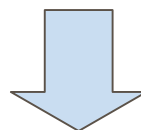
- 効果が現れる環境

- 利用者の立場 利用状況
- 図書館の立場

利用状況からの効果考察

入手可能な資料の増加

- 多様な資料へのアプローチ可能環境の提供
- 死蔵資料利用機会の提供
など



貸出し冊数の増加
ILL件数の増加

* 開架 / 閉架式、所蔵規模、利用者の要求の度合いに留意



3. 目録業務継続のために … 評価制度の提案

- CATの理念を危うくするもの
 - 共同構築に対する意識の希薄化
 - 目録担当者の削減とスキルの低下
 - 目録系業務の低コストでの外注化
 - 総合目録構築に図書館の経営資源を投下しない



CATへの登録業務を円滑に すすめていくためには

- NIIによる遡及入力事業
 - ・2004年度からスタート
 - ・多言語資料およびまとまったNCノーヒット資料が対象
- (新提案)CATへの貢献を評価する仕組み

このようなバックアップが必要



なぜ評価が必要なのか？

- OCLCのようにCATへの貢献の度合いによって参加館の資格が分かれていない。
- CATへの参加は無償である。

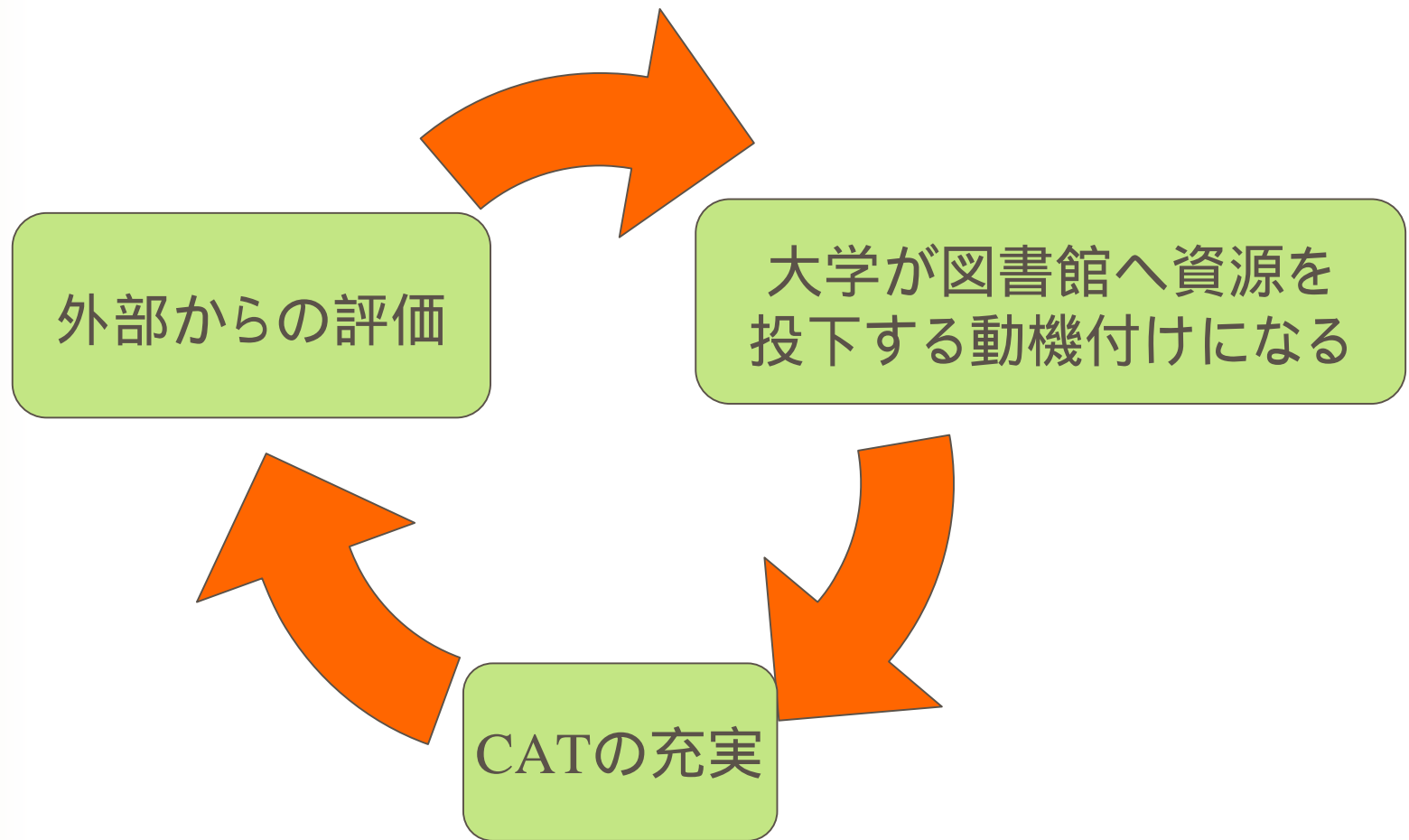
OCLCとの比較

資格区分	求められる活動	メンバー会議 出席資格	メンバー会 議での議決権
Governing member	すべての新規作成書誌をWorldCatに登録する。	有	有
Member	すべての新規作成書誌をWorldCatに登録する必要はないが、WorldCatのコンテンツの充実に寄与する。	有	無
Participant	OCLCの製品とサービスを自館の貢献なしに受けることができる。	無	無

OCLCでは参加館は資格区分によって貢献の度合いが異なるが、CATの参加館はみな同じ条件である。

(参考)<http://www.oclc.org/membership/levels/default.htm>

評価を行うと・・・





評価の内容(案)

- CATへの新規書誌登録数
- CATへの新規所蔵登録数

・・・などの貢献度に応じて、手当て(報奨金)を出す。



4 . 評価制度提案の難しさ (グループ内での自己検討)

- 手当ての二重取りにならないようにする。
(期待・手当て 入力の実施と
入力 評価・手当て) * 遡及入力書誌との区別？
- 新規書誌作成 件数 のみを
評価対象としてよいものか。
(重複書誌、不備のある書誌では…)



新規書誌作成にいたる背景(1)

■ 新刊

(一般の流通にのるもの、
入手しにくい外国の図書
非売品の報告書など)

■ 蔵書の稀少性

(**寄贈**を受ける場合、
歴史的蓄積による場合)

* **地域**の特色ある資料の所蔵

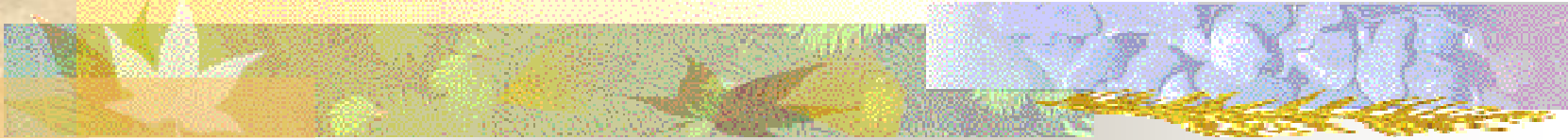


新規書誌作成にいたる背景(2)

- 稀少価値を持つ図書を所蔵する大学とは
 - ・ **歴史的経緯**
(まだ大学が少なかった時代から設立)
 - ・ **影響力ある研究者等との関係(寄贈)**

結果として、

旧帝大や伝統ある私立大学では、
作成の機会が多くなりやすい。



新規書誌作成以外での NIIへの協力例(案)

- 大学間での
データ共有・協力の理念(メリット)を普及
- ILLでの貢献
- 初心者を誘導するシステム講習会の開催



5. 全国規模の総合目録の充実をはかるために・・・(まとめ)

- 現状では業務の負担に格差があるので、それを是正する(多くの協力館を得る)制度づくり。
- 評価のむずかしさを含むものの、さらに一步でも多種類の書誌登録を促進させるために、補足的な制度をご検討くださるようお願いいたします。

参加館各位、いろいろな環境にあるかとは思いますが、
CATの構築とILLでの協力関係を通して、
利用者により良いサービスを提供できるよう
お互い頑張りましょう。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



おつかれさまでした！！